

生態学び、知識深める

北川ホタル学校が開講

延岡

「ホタル博士」の育成を目指す「北川ホタル学校」が12日から、延岡市北川町のホタルの館を主会場に始まった。計3回の講座を通してホタルの生態を学び、保護活動への理解を深める。



ホタルの生態について学ぶ受講者

同町の財産であるホタルの知識を習得してもらい、保護活動の指導者育

成につなげようと、地元

の北川やちみろ会(井本喜代治会長)が毎年実施。今回は節目の第10回。

延岡市民や門川高校の生徒ら17人が受講している。

どで、成虫となってからは2週間ほど。発光するのは子孫を残すための求愛行動といい、「ホタルを見に行くのは、暗くなる前の午後7時15分ごろで光り出して飛び立っていく瞬間がお薦め。ただ、明かりは禁物で絶対に懐中電灯で照らしてはいけない」と指摘した。また、

開講式では、門川高校教諭の吉田巧さんが「ゲンジボタルを知る」と題して授業。日本固有のホタルは54種類あるが、一般的にイメージする水生ホタルはゲンジボタル、ヘイケボタル、クメジマボタルの3種類のみという。吉田さんはホタルの見分け方や生態のほか、学校で取り組むホタルプロジェクトの経緯などを説明した。

ホタルの寿命は1年ほどで、成虫となったから

に予定。家田地区の丹仙川での保護活動や、麦わらを使った伝統のホタル籠作りを体験する。

門川高校の2年生でホタル班に所属している松葉蓮さんは「ここでホタルの生態を学び、先輩たちが残してくれたものを受け継ぎ、ホタルの生育に生かしていきたい」と話した。

ホタルの寿命は1年ほど